

株式会社 堀場製作所

**2020年12月期 上期
決算説明会**

代表取締役社長 足立 正之

2020年8月11日

説明内容

- 2020年12月期 上期 決算概要
- 2020年12月期 通期 業績予想
- セグメント別説明
- 社会課題への貢献 2020年12月期 上期 トピックス
- 株主還元

< 免責事項 >

本プレゼンテーション資料には、株式会社堀場製作所の業績、戦略、事業計画などに関する将来的予測を示す記述および資料が記載されています。これらの将来的予測に関する記述および資料は過去の事実ではなく、発表時点で入手可能な情報に基づき当社が判断した予測です。また経済動向、他社との競争状況、為替レートなどの潜在的リスクや不確実な要因も含まれています。その為、実際の業績、事業展開または財務状況は今後の経済動向、業界における競争、市場の需要、為替レート、その他の経済・社会・政治情勢などの様々な要因により、記述されている将来予測とは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。

説明内容

- **2020年12月期 上期 決算概要**
- 2020年12月期 通期 業績予想
- セグメント別説明
- 社会課題への貢献 2020年12月期 上期 トピックス
- 株主還元

2020年12月期 上期の振り返り

外部 環境	◆ 新型コロナウイルス感染症拡大による経済活動の縮小 ◆ 自動車業界の低迷 ◆ 半導体設備投資は回復傾向 ◆ ライフサイエンス分野の関心が高まる
内部 状況	◆ 新型コロナウイルス感染症拡大による、各国の行動制限措置の中で可能な限り事業活動継続 ◆ 危機に際し、様々な緊急施策実施

2020年12月期 上期実績

(単位:億円)

	2019年上期	2020年上期					
	実績	前回予想 (6/9)	実績	VS 前年同期	% VS 前年同期	VS 前回予想	% VS 前回予想
売上高	916	840	849	▲66	▲7.2%	+9	+1.2%
営業利益	82	55	66	▲16	▲19.4%	+11	+21.4%
営業利益率	9.0%	6.5%	7.9%	▲1.1p	—	+1.4p	—
経常利益	80	55	67	▲12	▲15.7%	+12	+23.2%
親会社株主に帰属 する四半期純利益	57	40	48	▲9	▲15.8%	+8	+21.5%
USドル(円)	110.06	110.00	108.23	▲1.83		▲1.77	
ユーロ(円)	124.32	120.00	119.31	▲5.01		▲0.69	

2020年12月期 上期実績(セグメント別)

(単位:億円)

	売上高					営業利益				
	2019年 上期	2020年 上期				2019年 上期	2020年 上期			
	実績	前回 予想 (6/9)	実績	VS 前年 同期	VS 前回 予想	実績	前回 予想 (6/9)	実績	VS 前年 同期	VS 前回 予想
自動車	343	265	271	▲72	+6	15	▲13	▲2	▲18	+10
環境	91	85	86	▲4	+1	6	2	4	▲2	+2
医用	126	110	104	▲22	▲5	7	1	▲0	▲7	▲1
半導体	227	260	274	+47	+14	53	65	64	+10	▲0
科学	126	120	113	▲13	▲6	▲0	-	1	+2	+1
合計	916	840	849	▲66	+9	82	55	66	▲16	+11

2020年12月期 上期実績(B/S、CF)

B/S

- ◆総資産は、受取手形および売掛金の減少などにより▲54億円の3,096億円
- ◆負債総額は、未払金の減少などにより、▲29億円の1,405億円
- ◆自己資本比率は54.4%

(2019年12月末比)

CF

- ◆利益計上や売上債権回収などにより、営業CF: +153億円
 - ◆有形固定資産取得などにより、投資CF: ▲50億円
 - ◆配当金の支払などにより、財務CF: ▲30億円
- フリーCF
+103億円

説明内容

- 2020年12月期 上期 決算概要
- **2020年12月期 通期 業績予想**
- セグメント別説明
- 社会課題への貢献 2020年12月期 上期 トピックス
- 株主還元

2020年市場環境の想定

全般	 【新型コロナウイルス感染症に関する影響】 行動制限措置からの経済活動再開も、先行きは不透明 長期化を懸念
自動車	 新型コロナウイルス感染症拡大による自動車販売台数減少 自動車関連メーカーの研究開発投資縮小
環境	 新興国での環境規制導入鈍化の可能性 原油価格下落による石油産業の投資減少
医用	 新型コロナウイルス感染症拡大による、通院患者数の減少に伴う病院での 検査数減少
半導体	 半導体メーカーの設備投資が回復傾向へ 中長期視点での半導体需要は底堅い
科学	 エネルギー関連の需要低迷、製薬やライフサイエンス分野は底堅い 半導体関連の計測需要は増加

2020年想定為替レート

(単位:円)

	2019年実績		2020年					
	上期	通期	前回予想 (6/9)	実績		上期	下期 予想	今回予想 (8/11)
				1Q	2Q			
USドル	110.06	109.03	110	108.86	107.60	108.23	105.77	107
ユーロ	124.32	122.03	120	120.08	118.54	119.31	120.69	120

2020年予想: 1円円高による営業利益への影響額(通期)

USドル 2.1億円

ユーロ 0.1億円

2020年12月期 通期業績予想

(単位:億円)

	2019年	2020年					
	実績	前回予想 (6/9)	今回予想 (8/11)	VS 前年	% VS 前年	VS 前回予想	% VS 前回予想
売上高	2,002	1,870	1,880	▲122	▲6.1%	+10	+0.5%
営業利益	209	150	150	▲59	▲28.3%	—	—
営業利益率	10.4%	8.0%	8.0%	▲2.4p	—	▲0.0p	—
経常利益	205	145	145	▲60	▲29.3%	—	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	154	105	105	▲49	▲32.2%	—	—
一株利益(円)	367	248	248	▲118	▲32.2%	▲0	▲0.0%
ROE	9.3%	6.1%	6.1%	▲3.2p	—	—	—

2020年12月期 通期業績予想(セグメント別)

(単位:億円)

	売上高					営業利益				
	2019年	2020年				2019年	2020年			
	実績	前回 予想 (6/9)	今回予想 (8/11)	VS 前年	VS 前回 予想	実績	前回 予想 (6/9)	今回予想 (8/11)	VS 前年	VS 前回 予想
自動車	810	680	680	▲130	—	64	5	5	▲59	—
環境	195	175	175	▲20	—	16	5	5	▲11	—
医用	253	230	220	▲33	▲10	13	2	—	▲13	▲2
半導体	471	525	540	+68	+15	107	135	135	+27	—
科学	271	260	265	▲6	+5	7	3	5	▲2	+2
合計	2,002	1,870	1,880	▲122	+10	209	150	150	▲59	—

説明内容

- 2020年12月期 上期 決算概要
- 2020年12月期 通期 業績予想
- **セグメント別説明**
- 社会課題への貢献 2020年12月期 上期 トピックス
- 株主還元

2020年上期実績/通期予想

(単位:億円)

2020年上期実績

排ガス・MCT※1

- 各国・地域での行動制限措置による製品出荷・検収遅延

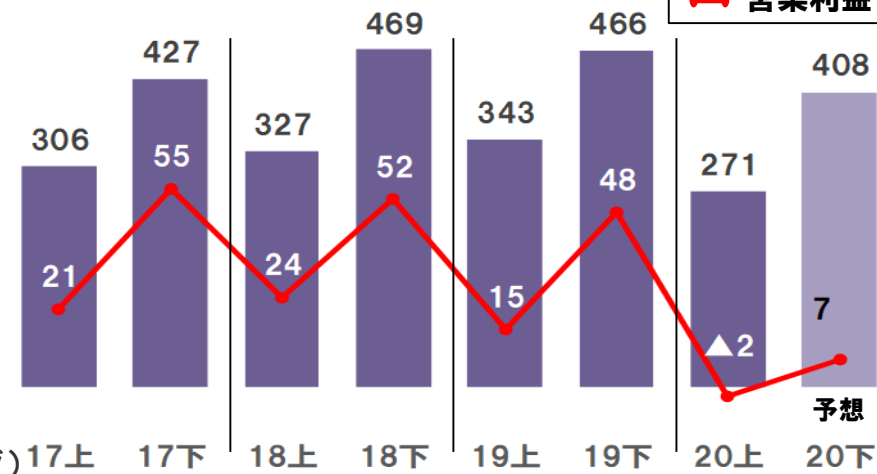
ECT※2

- 行動制限措置により稼働低迷

※1 Mechatronics
(自動車計測機器)

※2 Engineering Consultancy & Testing
(自動車開発全般に関するエンジニアリング)

【半期】売上高・営業利益推移

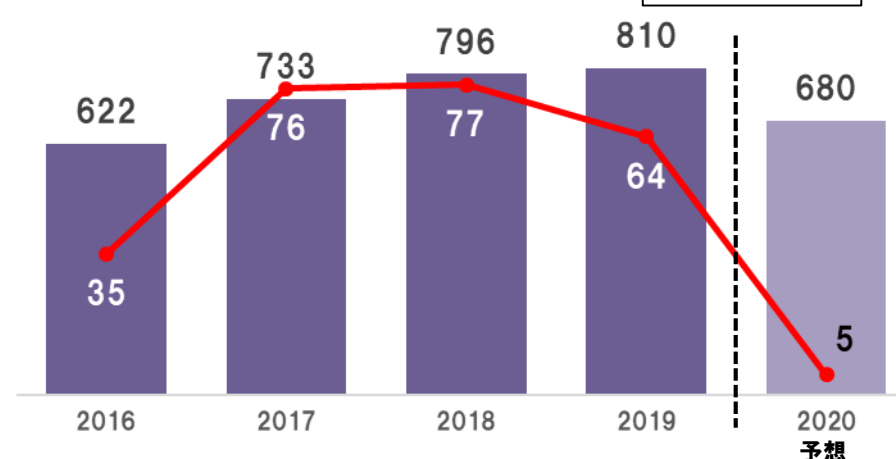


2020年通期予想

排ガス・MCT・ECT

- 自動車関連メーカーの研究開発投資低迷影響を受ける
- + 中長期では、次世代車パワートレインの多様化やCASE※3が加速、研究開発を後押し

【通期】売上高・営業利益推移



※3 コネクテッド(Connected)、自動化(Autonomous)、
シェアリング(Shared)、電動化(Electric)の略

2020年上期実績/通期予想

(単位:億円)

2020年上期実績

【煙道排ガス・大気・プロセス】

➖ 新型コロナウイルス感染症拡大影響により、国内売上低迷

➕ 放射温度計増産

【水質】

➖ 新型コロナウイルス感染症拡大影響により、アジアでの売
上が減少

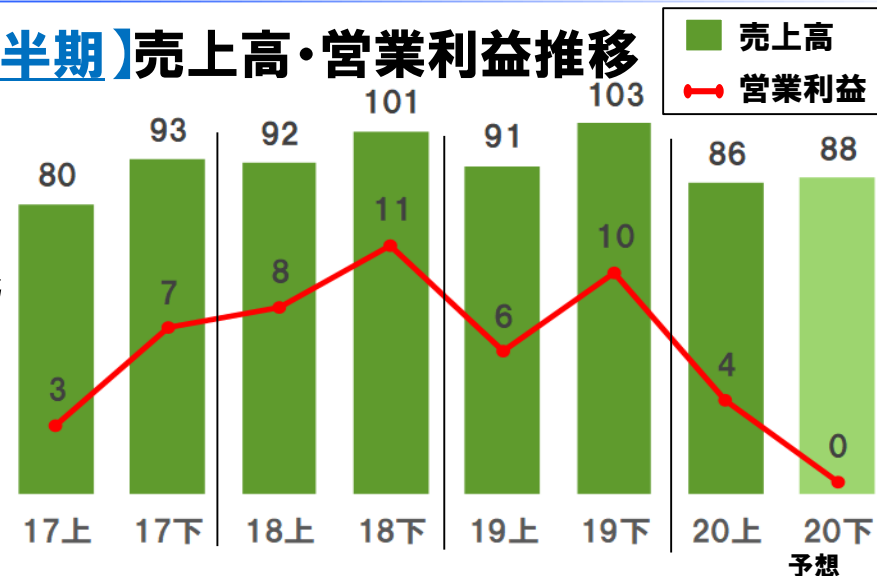
2020年通期予想

➕ 【煙道排ガス】国内でのリプレイス需要増加

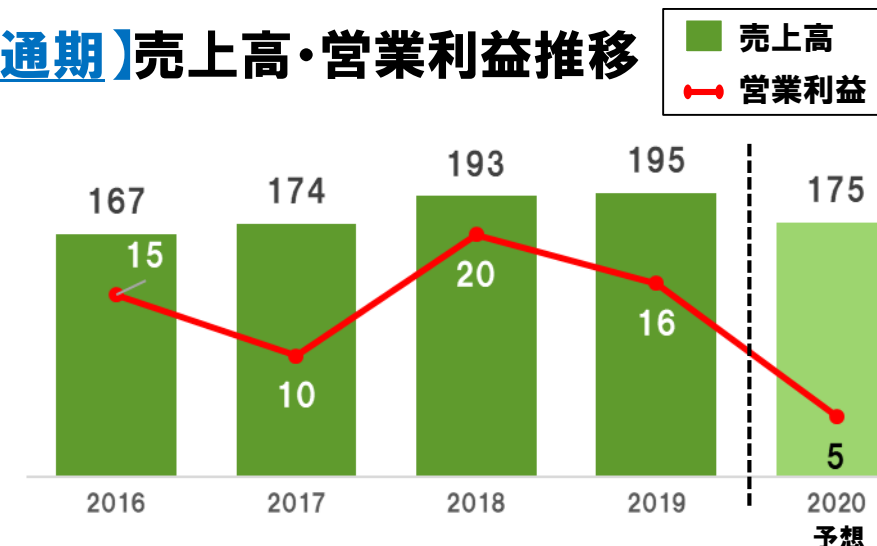
➖ 【水質】アジアは引き続き低調、国内需要も低迷

➖ 【プロセス計測設備】原油価格下落に伴い低迷

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



2020年上期実績/通期予想

(単位:億円)

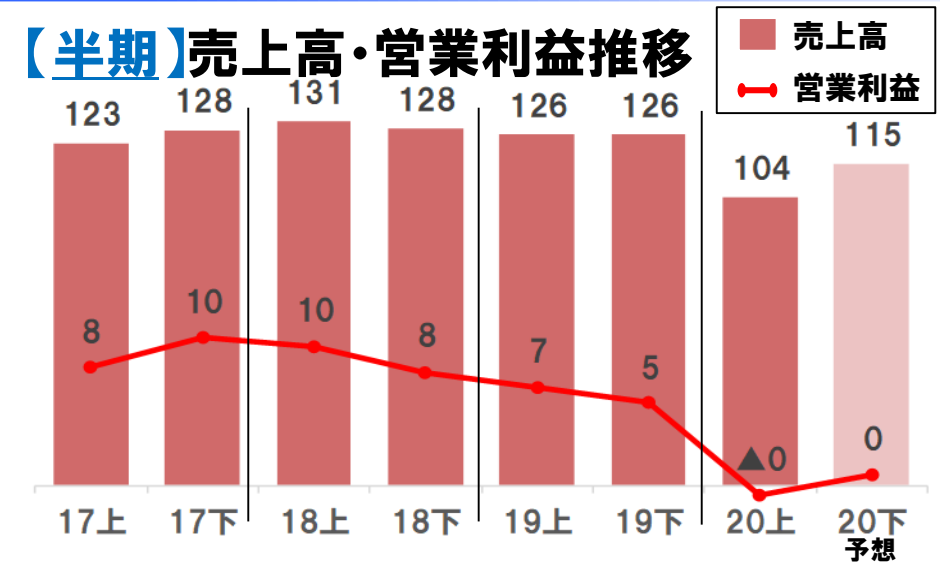
2020年上期実績

- 新型コロナウイルス感染症拡大による通院患者数の減少に伴う病院での検査数減少、売上減少

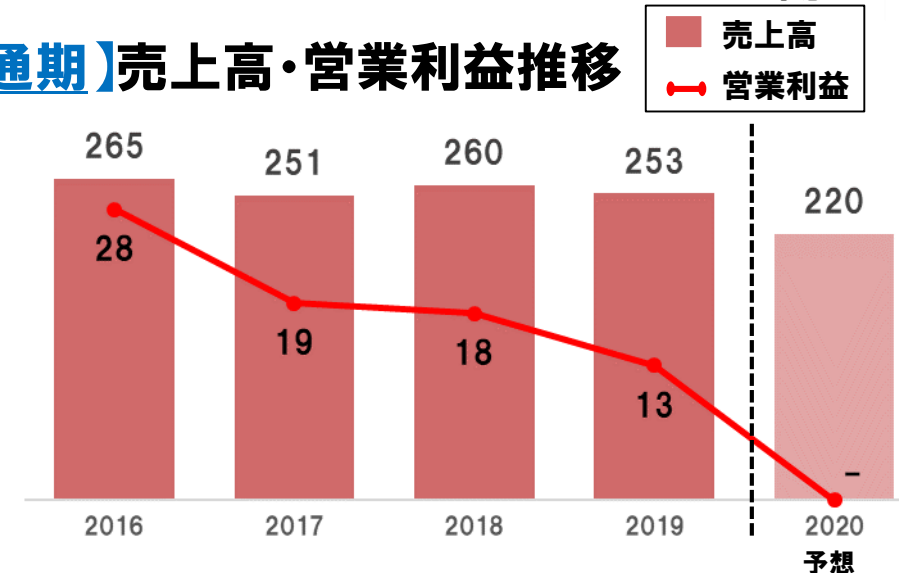
2020年通期予想

- 引き続き、通院患者数の減少に伴う病院での検査数減少を見込む
- + 中長期的には需要は回復、国内開業医市場や、病院市場向けの売上拡大を期待
- + 新製品Banalyst[※]の需要拡大中

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



※血糖・HbA1c測定装置

2020年上期実績/通期予想

(単位:億円)

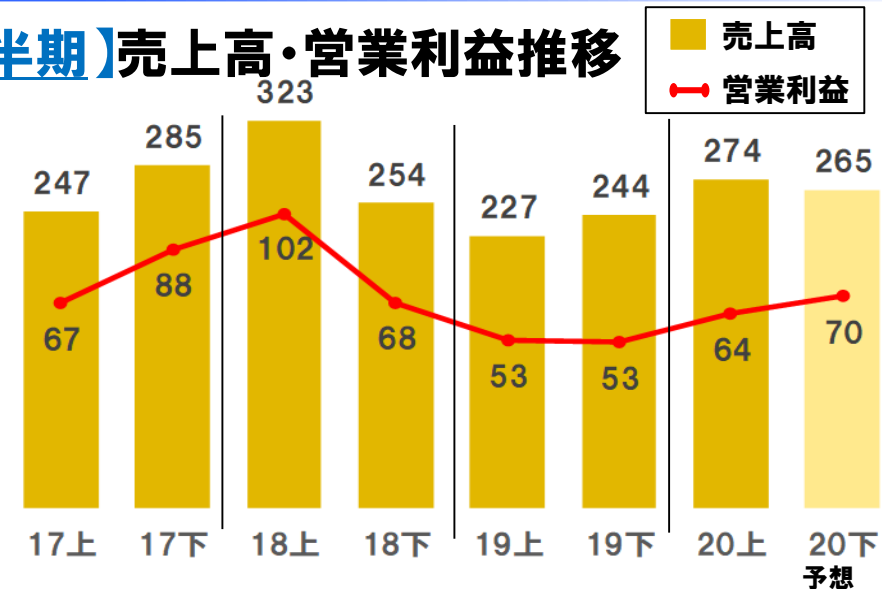
2020年上期実績

- 2018年メモリバブルによる反落から2019年底として回復基調が継続
- テレワークやデジタルビジネスの拡大に伴って、高性能パソコンやデータセンターの需要が増加

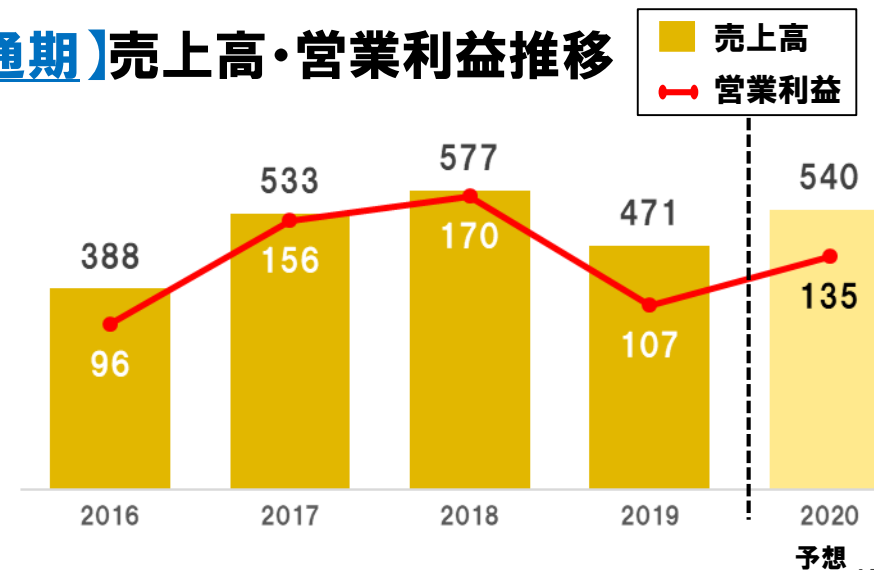
2020年通期予想

- 更なる微細化・積層化により、半導体製造装置メーカー向けの受注・売上は高い水準で推移する見込み
- 中長期視点でも、5GやIoT化進展による半導体需要は増加
- 製造プロセス複雑化に伴い各種モニタリング要求増加

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



2020年上期実績/通期予想

(単位:億円)

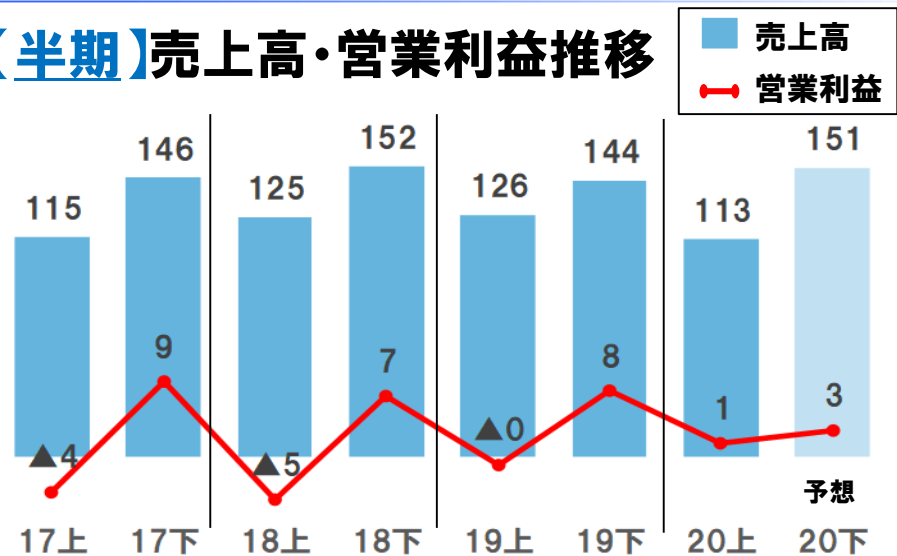
2020年上期実績

- 企業活動低迷の影響を受け、日本のラマン分光分析装置の売上が減少
- 引き続き、アカデミア向けも世界的にスロー
- + 販売費などの経費削減効果などにより、増益

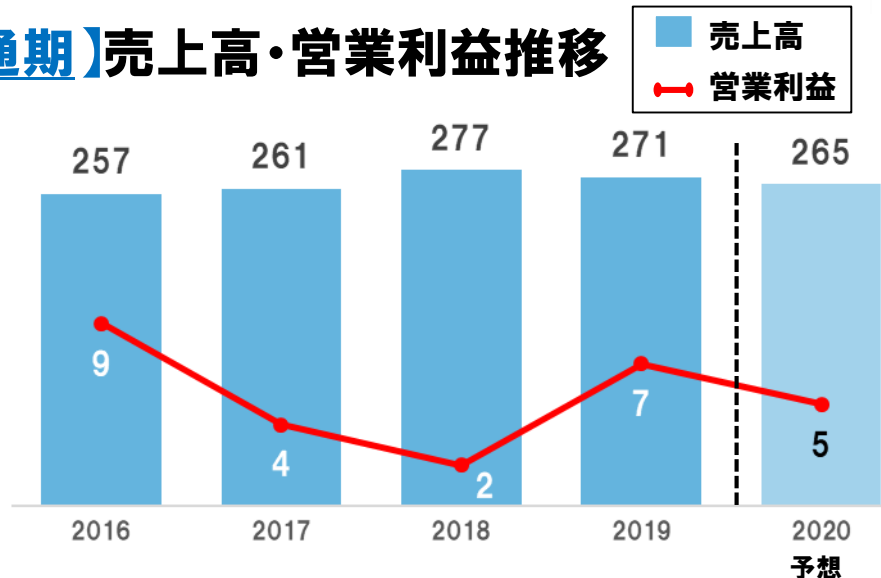
2020年通期予想

- + 半導体製造装置メーカーやライフサイエンス機器用光学モジュールの需要増加
- + 製薬などライフサイエンス研究での需要拡大を見込む
- + ラマン分光分析装置の新製品「LabRAM Soleil™」販売開始

【半期】売上高・営業利益推移



【通期】売上高・営業利益推移



説明内容

- 2020年12月期 上期 決算概要
- 2020年12月期 通期 業績予想
- セグメント別説明
- **社会課題への貢献** 2020年12月期 上期 トピックス
- 株主還元

社会課題に貢献するHORIBA

コロナウイルス感染症拡大で顕在化した社会課題

Solution

HORIBAが注力する3つのフィールド

マーケット

Energy &
Environment

Bio & Healthcare

Materials &
Semiconductor

主な対象

モビリティ、発電、
環境改善、水

臨床検査、製薬、
創薬、細胞、遺伝子

先端材料、半導体素材

Market Oriented Business

中長期経営計画 “MLMAP2023”

島津製作所との協業

計測機器「LCラマン」開発・販売で提携

混合物中の成分を
分離 & 捕集

統合ソフトウェア

ラマン分光計測

分離

捕集

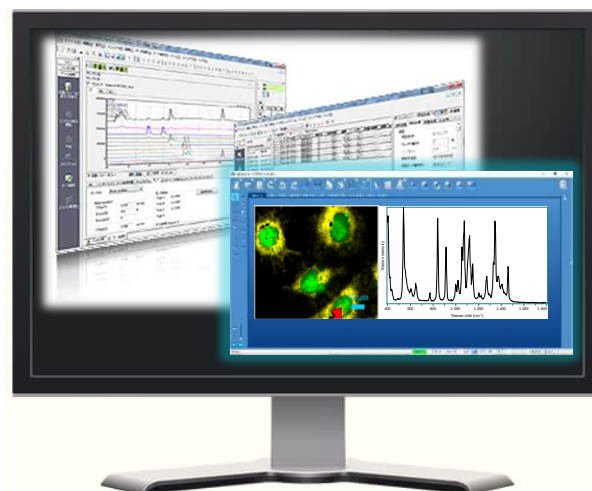
制御 & 解析

計測

ラマン分光装置



 **SHIMADZU**
Excellence in Science



HORIBA
Explore the future

島津製作所との協業で生み出すソリューション

創薬・食品・農業分野でのアプリケーション拡大を実現

	LC	ラマン分光	LCラマン
対象成分の 定量正確さ	○ 混合試料から 計測対象だけを抽出する	× 混合試料の計測は 苦手	○
未知成分の 推定能力	× 対象外の成分の 判別は苦手	○ 分子構造の違いから 未知成分の判別が可能	○

LCとラマンの融合が可能にすること

- ・天然由来の未知の機能性成分の探索・採取
- ・生体試料中の新規バイオマーカー探索支援
- ・新規マテリアルや副産物の構造推定支援

- 未知化合物の創薬・食品・農業などへの応用
- 新しい健康指標や診断方法の開発
- 高機能性・低環境負荷素材の開発

ライフサイエンス技術を活用する分野の拡大

マテリアル・エネルギー分野での新技術の必要性

新型コロナウイルス感染症対策への貢献

新型コロナウイルス感染症の抗体検査チップの共同開発

「新型コロナウイルスの信頼性の高い迅速診断システム開発」の一環

(経済産業省と日本医療研究開発機構が支援)

産総研

高速・高精度な
免疫測定法を確立
(最短15分測定)

HORIBA

装置開発
(医療機器として実用化)

ビズジーン※

測定アプリケーションの構築

※株式会社ビズジーン:
大阪大学発のバイオベンチャー

HORIBAが培ってきた技術を活用

免疫測定法

- ✓ 動物の体内に形成される抗体と、その抗原が特異的に反応する性質を活かした測定法

免疫測定法により農薬を測定する試薬
SmartAssayシリーズ測定キット



検体検査法

- ✓ 血液など、人体からの採取物に対して行う各種検査



遠心方式血液分析装置
Yumizen M100 Banalyst

全自動タイプの測定装置としての上市をめざす

半導体製造プロセスに高付加価値ソリューションを提供

歩留まり向上の重要課題：異物検出

EUVプロセスでのビジネス拡大への期待

半導体製造プロセス

レティクル/マスク
製造プロセス

露光/ウェハー
プロセス

HORIBA製品での対応

ブランクマスク検査

3面検査
(パターン面・ガラス面・ペリクル面)

ペリクル検査

各種マスクサイズ/基板検査



PR-PD3EP
EUV工程で使用される
ペリクル上の異物を高
精度に検出



PR-PD2BLI
マスク製造工程における
様々な段階のブランクマスク
を検査

【代表製品】

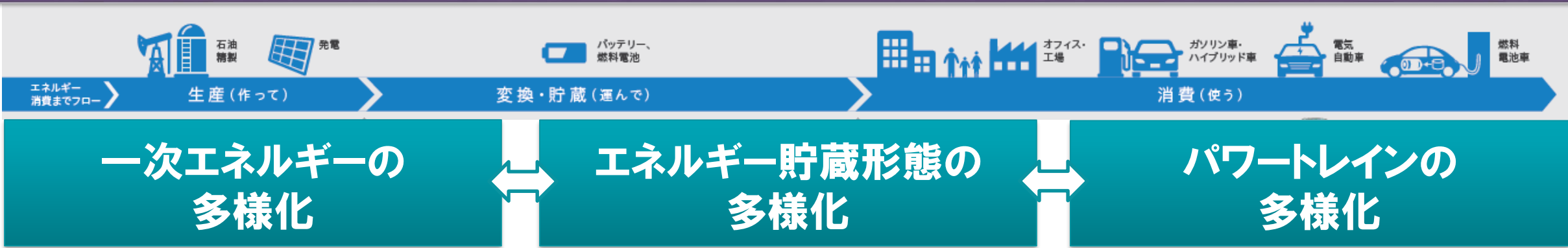
クリーン製品調整室稼働開始



- ✓ 異物検査装置 PR-PD Seriesの試作品開発や、特殊製品生産に対応するためのエリア
- ✓ 堀場製作所本社に開設、6月より稼働

HORIBAが考えるエネルギー社会

”Well to Wheel“ “Grid and Mobility“ 社会全体のエネルギーの最適化



「作って」「運んで」「使う」 新たなエネルギー社会に貢献するHORIBA

xEV・自動運転車の開発支援 自動車	環境モニタリング 環境	半導体製造プロセス効率化 半導体	先端素材解析 科学
医用 エネルギーを活用するヒトの健康状態の把握、予防医療進化への貢献			

設備投資・研究開発投資の考え方

設備投資

- 長期視点に基づいた戦略的な投資は継続
 - ✓ 中国新工場など大型設備投資も継続
 - ✓ 更新投資などを精査し、緊急性の高いものから実施

2020年通期予想:175億円

研究開発投資

- 需要回復期を見据えて、投資を継続
- 投資の優先順位付けを検討

2020年通期予想:160億円



中国上海市嘉定区に建設(完成予想図)

中国新拠点の建設

- 2021年稼働開始予定
- 総工費:約90億円
- 開発、生産、アフターサービスまで一貫して行う新拠点



京都・本社敷地内に建設(完成予想図)

堀場テクノサービス新社屋建設

- 2020年12月稼働開始予定
- 総工費:約38億円
- 新社屋建設により、製品メンテナンスや受託試験など、サービスビジネスを推進



ドイツ・マグデブルグに建設(完成予想図)

FuelCon社 新社屋建設

- 2021年末完成予定
- 総工費:約35億円
- 増加する需要への対応を見据え、生産エリアを拡張

説明内容

- 2020年12月期 上期 決算概要
- 2020年12月期 通期 業績予想
- セグメント別説明
- 社会課題への貢献 2020年12月期 上期 トピックス
- 株主還元

株主還元政策

配当金及び自己株式の取得

2018年実績 145円 [中間 50円、期末 95円]

2019年実績 130円 [中間 50円、期末 80円]

2020年予想 75円 [中間 30円、期末 45円] (6月9日公表より変更なし)

普通配当125円
創立65周年記念配当20円

基本的な考え方

- 配当金 + 自己株式取得 = 連結純利益 × 30% を目処
- 残りは戦略的投資資金として内部留保(設備投資・M&Aなど)

ご清聴ありがとうございました。